

肉用鶏の衛生水準の向上等に関する検討会（第5回）議事概要

I 日 時： 令和7年2月14日（金）10：00～12：00

II 場 所： 中央合同庁舎第4共用1202会議室

III 概 要：

- 学術有識者による農場でのカンピロバクター低減対策の重要性に関する発表後、地鶏・銘柄鶏の生産処理加工事業者及び小売業者から自主取組宣言の受け止めについてヒアリングを行った。また、（一社）日本食鳥協会による自主取組宣言ポータルサイトの準備状況等について発表があった。その後、中間取りまとめ（素案）について議論を行い、委員よりおおむね了承が得られた。
- 委員からの主な意見については以下のとおり。
 - ・ 農場では抗菌性物質を使用する機会もあることから、薬剤耐性を獲得しやすいカンピロバクターの保菌状況を農場で把握することは重要。
 - ・ 農場における簡易検査は、生産者が継続的に購入できる価格帯の製品開発が求められるのではないか。
 - ・ カンピロバクターは鶏群内で感染が拡がりやすい特徴があることから、鶏群単位でのプール検査も可能であり、比較的安価なイムノクロマト法を普及させてはどうか。
 - ・ 食鳥処理事業者の自主取組宣言の要件について、食鳥検査員の協力を得て、食鳥処理場におけるHACCPに係る指導内容と改善状況を整理してみてはどうか。また、食鳥処理事業者が、農家の衛生指導を積極的に行うことも、要件として考えてみてはどうか。
 - ・ 自主取組宣言した農場で生産された鶏肉について、「加熱せずに食しても安全である」といった誤解は避けるべき。自主取組宣言のポータルサイトの管理に際し、このような誤解が生じないように、必要な説明を付すべきである。
 - ・ ポータルサイトが、鶏肉を食する場として「家庭」を想起させるだけではなく、「飲食店」も意識した言葉や構成とすることが望ましい。外食産業や家庭も関れることがわかるようなイラストを用いるなど、見せ方の工夫をしてはどうか。
 - ・ 自主取組宣言の愛称は英語でもよいが、世代を問わず皆が親しみやすいようなものがよいのではないか。
 - ・ 「応援団体」の記載に少々唐突感があるので補足など検討してはどうか。

（以上）